

第4回 防府市地域公共交通活性化協議会 議事録

■開催日時・場所

令和5年11月10日（金）午後2時から午後3時40分まで
防府市役所 議会棟3階 全員協議会室

■次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - (1) デマンドタクシーの運行について
 - (2) 地域公共交通計画について
4. 報告事項
 - (1) 夜間タクシー実証運行事業
 - (2) タクシー事業者交通系ICカード利用促進事業
 - (3) 運転手確保緊急対策事業
5. 閉会

■配付資料

	資 料 名
1	第4回防府市地域公共交通活性化協議会 次第
2	資料1 デマンドタクシーの運行について
3	資料2 協議会の内容（スケジュール）
4	資料3 地域公共交通計画について
5	資料4 夜間タクシー実証運行事業
6	資料5 タクシー事業者交通系ICカード利用促進事業
7	資料6 運転手確保緊急対策事業
8	資料7 公共交通の利用促進の取組について
9	防府市地域公共交通活性化協議会委員名簿
10	席次表

■出席者名簿 敬称略・順不同

	区分	所属団体・役職	名前	出欠
委員	学識経験者	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科准教授	目山 直樹	出席
	地域公共交通 の利用者等	防府市自治会連合会	権代 祥一	出席
		防府市老人クラブ連合会 理事	湯原 温茂	出席
		防府市障害福祉団体連合会 会長	中村 信也	出席
		市民代表	東福 俊明	出席
	公共交通 事業者等	防長交通(株) 乗合営業部長	河合 貴志	出席
		中国ジェイアールバス(株) 生活交通活性化推進室長	渡瀬 千博	出席
		西日本旅客鉄道(株)山口支社 防府駅長	古村 敏彦	出席
		(有)野島海運 取締役	阿部 幸典	出席
		(一社)山口県タクシー協会 副会長	大隅 洋三	出席
		山口県交通運輸産業労働組合協議会 (私鉄中国地方労働組合防長交通支部防府分会 副分会長)	中村 圭吾 (代理：石黒 保明)	代理 出席
	道路管理者	中国地方整備局山口河川国道事務所 交通対策課長	三浦 道人	欠席
	港湾管理者	山口県防府土木建築事務所 維持管理第一課長	山田 成仁	出席
		山口県防府港務所 主査	藤井 健二	欠席
	警察	防府警察署 交通課長	上野 伸哉	出席
	関係機関	中国運輸局山口運輸支局 首席運輸企画専門官	館 昭憲	出席
山口県観光スポーツ文化部 交通政策課長		渡邊 昭博 (代理：守永 巧)	代理 出席	
計画作成市	防府市 総合政策部長	永松 勉	出席	
事務局		総合政策部次長	伊藤 忍	
		総合政策部 参与	熊野 博之	
		総合政策部政策推進課 課長	磯邊 範子	
		総合政策部地域振興課 課長	岡田 由紀江	
		総合政策部政策推進課 課長補佐	末富 真一郎	
		総合政策部政策推進課交通政策係 係長	國貞 裕司	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任	渡邊 彩絵	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任	江山 雄一郎	

■議事録

1. 開 会

2. 会長挨拶

現下の公共交通の課題は多い。今から議事の中にも出てくるが、運転手が確保できないという問題が生じている。故郷の街で公共交通をいかに快適にするか、利便性を維持していくか、そこにどう協力していくかが、この会議の課題だと思っている。

このことを心に留めていただき、積極的な御意見をいただき、決めるべきことを決めていただききたい。

3. 議 事

会長から会議の公開について確認後、議事を進行。

協議事項（１） デマンドタクシーの運行について

事務局から資料1について説明。

目山会長 デマンドタクシーのヒアリングで「利用のハードルが高い」との意見があったが、どのようにハードルが高いのか。予約してしまうと乗る義務が発生してしまうからなのか、手続きが煩雑なのか。

事務局 通常のタクシーのように呼べばすぐ来るのではなく、1時間前に予約をする仕組みになっている点に、若干の不便さを感じているのではないかと思う。

A 委員 運転手不足により、バス路線やその便数の見直しの必要が生じている状況だが、見直しを行った際に、今あるデマンド交通の拡大や、ない地域に新たに導入するなどの対応は今後ありうるか。

事務局 利用者の声を一番に捉えながらになるが、デマンドタクシーを担うタクシー事業者も運転手不足であり、導入を希望する声があるからとあって、すぐに入れるのは難しい。

目山会長 バス会社が運行計画を変更した場合には、乗り継ぎ時間等の調整のため、デマンドタクシーの方の運行計画の変更は可能か。

事務局 路線のダイヤ改正があれば、今回示した運行計画の時間等の変更は適宜対応したい。

目山会長 既存の路線バスのフィーダー路線としてデマンドタクシーが運行しているという観点で、基幹のバスのダイヤ等が変更になった場合には弾力的に見直すことを検討するのが筋であると思う。

◎協議結果

来年度の切畑デマンドタクシー及び玉祖デマンドタクシーの運行については、今年度と同様に実施することとする。

協議事項（2） 地域公共交通計画について

事務局から資料2・3について説明。

説明に対し、どの委員からも特段の意見なし。

◎協議結果

防府市地域公共交通網形成計画の延長が承認され、事務局は延長の手続きを進める。

4. 報告事項

報告事項（1）～（3）について、事務局から一括説明。

B 委員 夜間タクシー実証運行事業は警察としてもたいへん助かっている事業であるが、これは今年度限りの事業か。

事務局 現在は実証期間中であるので、その動向も見ながら今後のことは検討したい。

B 委員 知らない人も多いので、ぜひ周知に力を入れてほしい。
夜間タクシーの担い手となるタクシー会社には負担になっているのか。

C 委員 冒頭から話があるとおりタクシー業界も人手不足で、特に夜間は不足している。
その中でこの事業を進めており、現在1台で運行している。2台にできればという希望はあるが、現状を考えると当面1台での実施になろうかと思う。
宣伝については、市にもご尽力いただきたい。

事務局 タクシー事業者の皆様には運転手不足の折、事業への御協力をいただき大変感謝している。まだしばらく期間があるのでしっかり周知するとともに、委員の皆様にも周りの方々への周知をよろしく願いたい。

目山会長 報告事項で上がっている（１）から（３）は、現在の防府市地域公共交通網形成計画に位置づけた事業ではなく、緊急的に実施していることだと思うが、令和８年度以降の新しい防府市地域公共交通計画にはこういった事業を位置づけるのか。

事務局 タクシー事業者交通系ＩＣカード利用促進事業については、緊急的な対策ということで今年度限りと考えている。その他のものについては、特に夜間タクシーなどは市民の安全という面もあるので、新しい計画に位置づけるかは検討中。

目山会長 他の地域では夜のタクシーは呼んでも出てくれないという話も聞くので、こういった事業はとてもよい。ただ周知がもう一つ、との声もあったので、その点を強化していただきたい。台数を増やすことは難しいという実情を伺ったところだが、実のある事業にしていきたい。

目山会長 運転手不足の問題が緊急を要する状態になっていることを踏まえ、各交通事業者に現下の運転手不足の状況を一言ずつお聞かせいただきたい。

C 委員 タクシーは２４時間運行という点が他の輸送機関と違う。
今、働き手の掘り起こしを行っているが、男性でいえば６０～６５歳を中心に考えている。女性はフルタイムではなく短時間などの勤務形態の見直しも含めた働き方改革を進めて、１人でも２人でも人員を確保したいと考えている。
話が変わるが、現在ライドシェアも話題になっている。ライドシェアについては、責任の所在を含めた運行管理上からいっても問題があると思っており、また免許制度の問題も、ライドシェアは普通免許、タクシーは２種免許というように整合性が取れない部分もある。自分の立場では賛成というわけにはいかないが、行政の流れをみて対応していかざるを得ないと思っている。

D 委員 周りのバス運転手が退職する理由を聞くと、「運転手不足のため休日でも出勤を強いられるなど、私生活にも支障が出て来始めた」というような話を聞いている。勤務状況を改善していかなければならないと思っている。

A 委員 全営業エリアで運転手が不足している状況。その中で、廃止・減便といった縮小する方向の路線の見直しをこれからもやっていく必要があると思っている。既存の運転手に苦勞を掛けている状況が続き、運転手も疲弊してきた中で、このまま続けていくとダメになってしまう、という危機感は常に持っている。雇用については新規の入社もあるが、退職者の方が多い状況である。

運転手の高齢化も一つの大きな問題。10年、20年先に今の運転手の人数が維持できるかという、不可能だろうと思っている。

外国人運転手（特定技能）の検討や自動運転の技術も日々進歩しているが、実現はもう少し先の話で、制度の確立を待っている余裕はないので、今後も協議等させていただくと思うが、こういった状況があることを踏まえてご理解いただきたい。

E 委員 全営業エリアで運転手不足であり、内勤者で免許を持っている者も運転に回っている状況。災害代行輸送も担っており、貸切バスを止めたり、収支の悪い高速バスを減便したりして運転手を充てているが、新しい事業に人が割けず新事業が十分にできていない。

F 委員 防府駅窓口は日中完全に閉めきっており、お客様対応は関西のコールセンターが担う形をとっている。切符や交通系 IC カードの購入も、各々が券売機で買ってもらえるようになるので、この機会に券売機の使い方に慣れていただければ、アテンドをしているところ。

目山会長 本当はこういった会議の場で、各事業者が連携していくための具体的な議論ができればよいが、人材不足とか高齢化といった難しい問題は、事務局を含め検討しながら、それぞれの立場で進めていっていただきたい。

その他、何か一言言っておきたいことがあればこの場でお願いしたい。

G 委員 薬局が主体となって運行している福祉バスの実情を聞くと、午前中の3便だけの運行ではあるが、年間300万円程度の事業費でやっているとのこと、驚いた。皆さんで小口のお金を集めれば、いろんな事業ができるのではないかと思い、こういった会議の中で話をしてみたかった。何とかならないものか。

目山会長 薬局が運行するこの類のものは既存の公共交通に影響を及ぼす可能性があることから、議論するには慎重にならなければならない。利用者の立場から見て、便利だという意見はわかるが、これは公共交通ではないので、こういった議題は事前に事務局に相談をしていただきたい。

G 委員 利用者の立場として、やっぱり便利なものは便利だと言いたいところがある。こういう事業を計画されている方もいらっしゃるようだが、大資本の企業でないとできないだろうと思うし、何とかならないものか。議論はこの場でしてもいいのではないかなと思うが、いかがか。

目山会長 そういった事業を計画する事業者が、公共交通と調整しながらやると申し出てきたら、やっとな議論の俎上にのる可能性がある。同じ福祉バスだが、他自治体で福祉の予算で実施している買い物支援交通は、この交通を実施する協議会が母体になって、その自治体の地域公共交通計画を立ち上げるときの事務局側に回っている。そういった協調がない限り、この会の中で議論するには向いていないと考える。監督官庁の皆様など、この件について情報があったり、見解をお聞かせいただけるようであれば、ご発言いただきたい。

H 委員 今回の例は、事業者がその客を主に対象として、店と客が住んでいる地区の間を無料で送迎するような形だと思うが、そういった形も確かに世の中多々存在しているのは把握している。この例で考えれば、その事業者が運転手1人を抱え込んでしまっているわけで、その運転手を他の公共交通に回してコミュニティバスのような形で実施し、事業者側がスポンサーとしてコミュニティバスにお金を出すような形ができればいいのではないか。

国は「地域の全ての交通資源を総動員して一つの計画にまとめていってはいかがですか」ということを進めているところであるので、一つの事業者がスタンドプレイ的にやるのではなく、周りと協調して進めていただきたいと考える。

I 委員 「地域公共交通を守っていこう」という目的は一緒の事業者同士でも、バス、タクシー、また行政等の視点を加えたデマンドなど、同じエリアの中で棲み分けをしているところ。棲み分けや調整をかなり深くやってきた結果が、今のデマンド交通やバスの営業エリア、タクシーの営業エリアとなっているのだと思う。そういった調整の上で成り立つものだと考えれば、細かい調整を整えた後にこういった会議の議論の俎上に上がってくるものなのかなと感じる。

目山会長 言いにくいところを言っていただき感謝する。公共交通の定義は「誰もが利用できる」というところにあるので、特定の事業者が、無料か有料かに関わらず、その事業の目的のために走らせている交通は、この公共交通の会議の中には乗りにくい。

こういった交通は珍しいことではなく、大きなショッピングセンターで、駅から遠いから補助的なバスを臨時で走らせる、といった例はいくつもある。そういうものと公共交通とはある意味棲み分けである。このような交通は通学や通勤には使いにくく、公共交通の持っている使命とかけ離れているところがある。

自分のところのサービスを提供する時間帯だけ運行し、利用者をさらっていく事業者のバスは、そこに低コストで出来る最大の理由がある。24時間走らせないとはいけ

ない夜間タクシーなどとは、公共性の使命が全く異なっている、というところが私の意見である。

それを調整した上で俎上に上げてこられる分には可能性としてあると思うが、それは簡単ではない。

それでもこういう意見があるから聞いてくれというのは、利用者側の声として大事だし、重たい意見だということは理解している。

どの意見も否定するものではない。ただ、状況やいろいろな背景が各々違う中で、タクシーやバス事業を生業として関わっている方々がおられ、そういったところが高齢化などによって離職し、バスやタクシーの運転手が不足している。これを何とかしなければいけないという状況に置かれている認識は、今日共有できたのではないかと思う。

一方で薬局の例にあったように、公共交通とあいのりしていない交通もあり、それが課題になるということも含めて、今日の会議の中では共通認識ができたと理解している。

今後もこの委員会におられる皆様方のご支援・ご協力、あるいは協調を持ちながら進めていただければいいかなと思っている。よろしくお願ひしたい。

5. 閉 会
